

厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究年度終了報告書

医療従事者の研修

研究分担者 忽那 賢志 国立国際医療研究センター国際感染症センター国際感染症対策室

研究要旨 本課題では研修会の開催および e-learning 動画の公開を行った。新興再興感染症に関する研修として、輸入感染症講習会、動物由来感染症講習会、一類感染症受け入れ体制整備研修会を実施した。2020 年 1 月 19 日から 3 月 31 日まで公開したところ、輸入感染症講習会のべ 1137 名、動物由来感染症講習会のべ 864 名、一類感染症受け入れ体制整備研修会のべ 399 名の医療者が視聴した。新型コロナウイルス感染症の流行下において、継続的な医療従事者の研修・教育に e-learning は有用であると考えられた。

A. 研究目的

ウイルス性出血熱、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群などの新興再興感染症、輸入感染症は日本国内では稀な感染症であり、十分な知識を持つ医療従事者は多いとは言えない。本研究の目的は、これらの新興再興感染症の診療に関わる可能性のある医療従事者に、感染対策や診断治療などの情報を提供し知識をアップデートすることで患者の発生に備えることである。

B. 研究方法

研修会の開催

輸入感染症講習会、動物由来感染症講習会、一類感染症受け入れ体制整備研修会の 3 つの講習会・研修会を開催した。新型コロナウイルス感染症流行下のため、オンライン開催として、受講方法はオンデマンド方式とした。

(倫理面への配慮)

本研究は協力施設の同意のもとで実施されており、患者および医療従事者に関する個人情報の取り扱いが発生しない。

C. 研究結果

各講習会・研修会の講演テーマ、講師については以下の通りである。

■輸入感染症講習会

1. 輸入感染症のアプローチ (市立伊勢総合病院 谷崎隆太郎)
2. マラリア疫学・微生物・検査 (国立国際医療研究センター熱帯医学・マラリア研究部 狩野繁之)
3. マラリア治療・予防 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 高谷沙帆)
4. デング熱 (神奈川県衛生研究所 高崎智彦)
5. 狂犬病 (京都市立病院 山本舜悟)
6. 動物咬傷 (国立国際医療研究センター国際感染症センター 野本英俊)
7. 麻しん・風しん (国立国際医療研究センター国際感染症センター 石金正裕)
8. 腸チフス・パラチフス (飯塚病院感染症科的野多加志)

■動物由来感染症講習会

1. 動物由来感染症 (酪農学園大学動物薬教育研究センター 田村豊)
2. 耐性菌とワンヘルス (国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター 日馬由貴)
3. 中東呼吸器症候群 (MERS) (成田赤十字病院感染症科 馳亮太)

4. 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) (山口県立総合医療センター血液内科 高橋徹)
5. ダニ媒介性脳炎 (長崎大学感染症共同研究拠点研究部門 好井健太郎)
6. 殺虫剤・忌避剤の使用 (アース製薬)
7. トキソプラズマ症 (国立感染症研究所寄生動物部 永宗喜三郎)
8. 黄熱 (国立国際医療研究センター国際感染症センター 氏家無限)
9. コリネバクテリウム・ウルセランス感染症 (国立感染症研究所安全実験管理部・細菌第二部 岩城正昭)
10. 日本脳炎 (国立感染症研究所感染症疫学センター 新井智医師)
11. ペスト (国立感染症研究所細菌第一部 石原朋子)
12. 感染症を媒介する節足動物: 蚊 (国立感染症研究所昆虫医科学部 葛西真治)
13. リケッチア症 (福島県立医科大学総合内科・臨床感染症学講座 山藤栄一郎)
14. エゾウイルス (北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター 松野啓太)

■一類感染症受け入れ体制整備研修会

1. 地域における COVID-19 診療体制整備 (静岡がんセンター 感染症科 倉井華子)
2. COVID-19 院内感染を経験して (JCHO 新宿メディカルセンター呼吸器内科 清水秀文)
3. COVID-19 院内感染対策 (東北大学病院 感染管理室 徳田浩一)

2020 年 1 月 19 日から 3 月 31 日まで公開したところ、輸入感染症講習会のべ 1137 名、動物由来感染症講習会のべ 864 名、一類感染症受け入れ体制整備研修会のべ 399 名の医療者が視聴した。

D. 考察

本分担研究では、これまでオンサイトでの研修会、講習会を開催し、新興再興感染症にかかわる医療従事者に研修の機会を提供してきた。しかし、2020 年 1 月以降、日本国内でも新型コロナウイルス感染症が流行し、感染対策の観点から

2020 年度はオンサイトでの講習会・研修会の開催が困難となった。一方で、新型コロナウイルス感染症に関する知識や、各医療機関での取り組みを医療従事者間で共有することは非常に重要であること、今後の新興再興感染症の流行に備え各感染症に関する知識をアップデートする必要があることから、2020 年度はオンラインでの e-learning 形式で開催することとした。

2019 年度のオンサイトでの輸入感染症講習会、動物由来感染症講習会、一類感染症受け入れ体制整備研修会の受講者はそれぞれ 89 名、11 名、187 名であったことと比べれば、これまでと比べ多くの医療従事者に学びの機会が提供できたことは 2020 年度の成果と考えられる。2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら、オンサイトでの開催、オンライン開催、もしくは併用について検討したい。

E. 結論

本課題では医療従事者の感染症研修を行った。2020 年度はオンサイトでの講習会・研修会の開催が困難となったため、2020 年度はオンラインでの e-learning 形式で開催することとした。新型コロナウイルス感染症に関する知識や、各医療機関での取り組みを医療従事者間で共有することは非常に重要であること、今後の新興再興感染症の流行に備え各感染症に関する知識をアップデートする必要があることから、これまでと比べ多くの医療従事者に学びの機会が提供できたことは 2020 年度の成果と考えられる。

F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし